



## サケの赤ちゃんのおなかにある、グミのようなものは何なの

### サケの卵は、イクラ

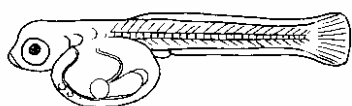
おすしなどにのっている、赤い宝石のようにきれいなサケの卵、イクラを知っていますか。卵によく栄養がたまって、産卵まぎわになったサケの卵は、一つぶ一つぶが、はなれやすくなっています。これをほぐして、しょう油づけなどにしたものが、イクラです。

産卵後およそ2か月ぐらいますと、サケの卵から、子魚(赤ちゃん)が生まれてきます。ふ化したばかりのサケの子魚は、まだ、自分でえさをとることはできません。かわりに、卵の栄養分の「卵黄」を、おなかにくっつけて出てくるのです。

### サケの子魚のお弁当

サケの子魚の、おなかについているグミのようなものは、よく見ると、イクラとそっくりですね。この卵黄が、毎日少しずつ子魚の栄養になって減っていき、50日ぐらいますと、なくなります。ちょうどそのころ、サケの子魚は、かくれていた石のかげなどから出て、泳ぎだします。体長が3.5センチメートルぐらいまで育ち、自分で泳いでえさを食べられるようになったのです。体長が5~7センチメートルぐらいまで育ったサケは、銀色の体になり、川を下って海へ旅立ちます。

イクラがおいしいのは、サケの子魚が大きくなるまでに必要な、栄養分がつめこまれているからなのです。(監修・安部 義孝)



ふ化したばかりのサケの子魚



泳げるようになったサケの子ども

